

ご指摘事項12～15への回答について

平成28年10月26日

東邦ガス株式会社

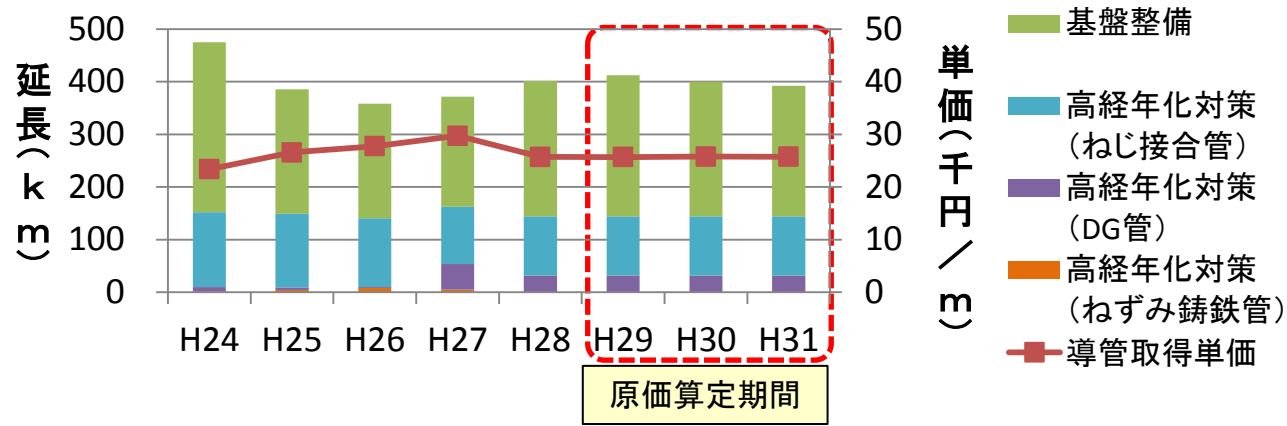
資料目次

- | | | |
|------------------------|--------------|-----|
| 1. 供給設備の実績単価の変動要因 | 【指摘事項12への回答】 | p3 |
| 2. 固定資産除却費の算定方法 | 【指摘事項13への回答】 | p6 |
| 3. ガスメーターの取替数 | 【指摘事項14への回答】 | p10 |
| 4. 過去5年間の導管総延長の計画値と実績値 | 【指摘事項15への回答】 | p12 |

1. 供給設備の実績単価の変動要因

- 単価が変動する主な要因※1は、施工種別（基盤整備、高経年化対策）の構成比によるものです。
 - 原価算定期間の単価は、施工種別毎に実績単価※2に効率化を加味して算定しています。
- ※1:その他には、施工する路線の規模(施工延長等)・敷設環境(河川横断、国道埋設等)・工法(非開削工法等)の要因があります。
- ※2: 低圧導管および中圧導管の一部の単価は、H24～H26年度の平均単価に効率化を加味して算定し、高圧導管および左記以外の中圧導管(基盤整備の一部)の単価は、個別路線毎の単価に効率化を加味して算定しています。

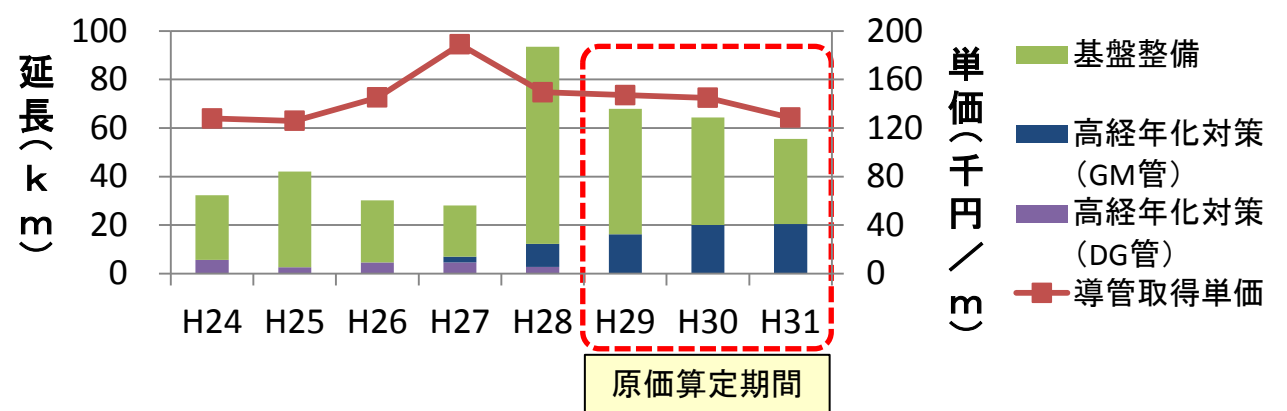
低圧導管の導管取得延長と単価の推移



〈主な低圧導管実績単価(H24～H26平均)〉

項目		単価
基盤整備		27千円/m
高経年化対策	ねじ接合管	21千円/m
	DG管	42千円/m

中圧導管の導管取得延長と単価の推移



〈主な中圧導管実績単価(H24～H26平均)〉

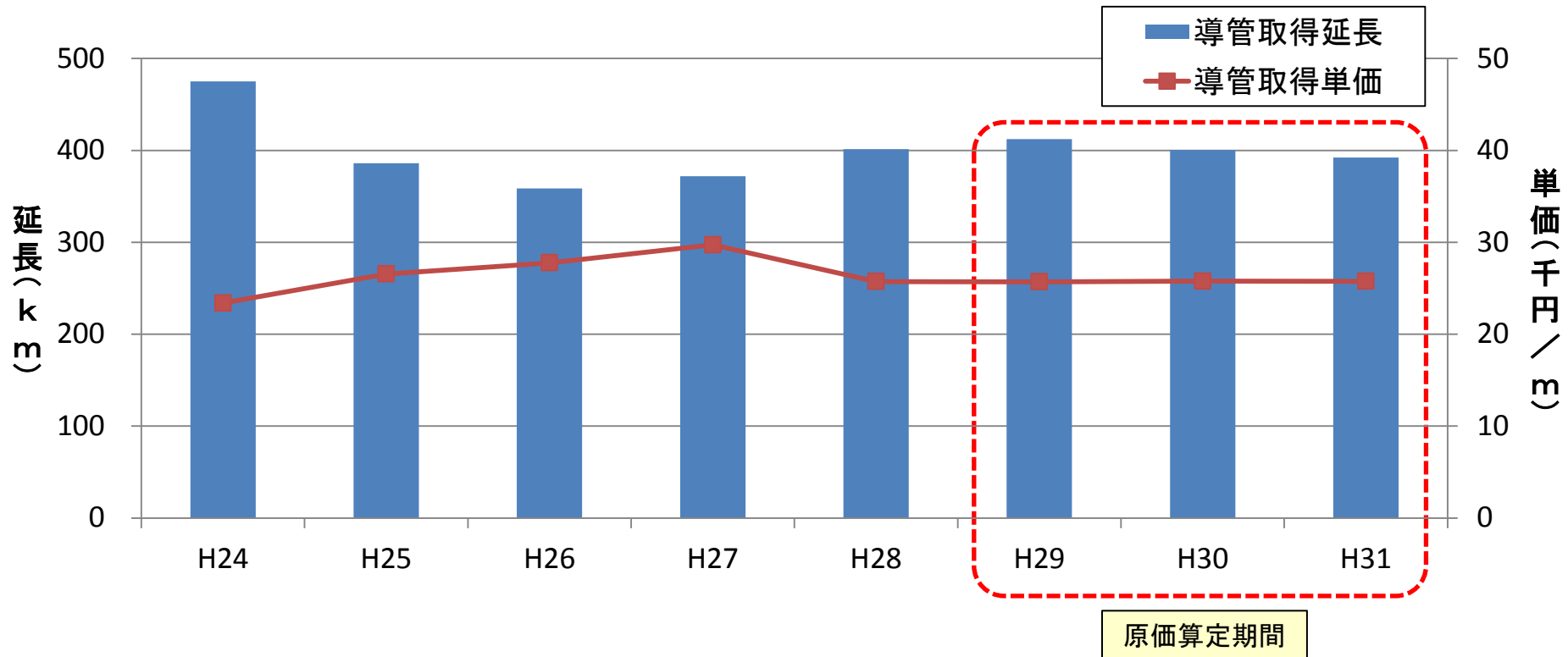
項目		単価
基盤整備		127千円/m※1
高経年化対策	GM管	109千円/m※2

※1: 基盤整備単価は施工状況の影響が大きく年度毎の変動幅にばらつきがある
 ※2: DG管対策の実績単価にて算定

【参考】供給設備の物量と単価について(再掲)

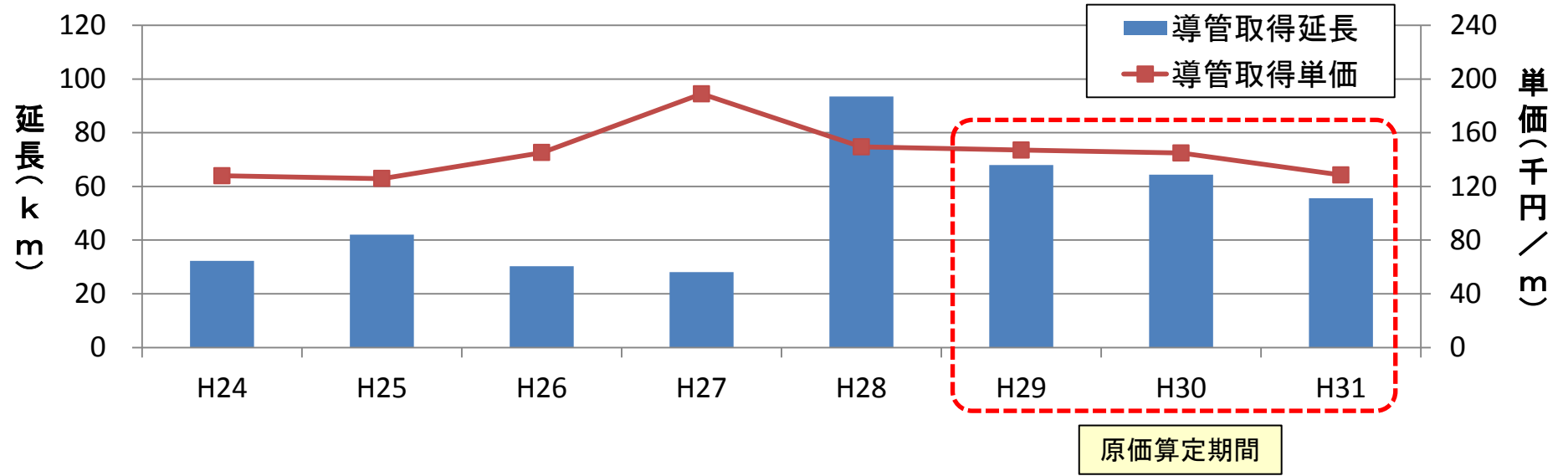
- 物量(導管取得延長)は、東邦ガスグループビジョン及び中期経営計画に基づき、販売量を伸ばすべく、導管整備を推進していくことに加え、安定供給と保安確保に向けて、国の安全高度化計画に則り、保安対策を推進するため、微増傾向にあります。
- 単価は、低圧導管と中圧導管の一部においては、H24～H26の実績平均単価に効率化を加味して算定しています。
※高圧導管等の一部の路線については、現場状況等が異なるため、個別算定した上で効率化を加味して算定しています。

低圧導管の導管取得延長と単価の推移

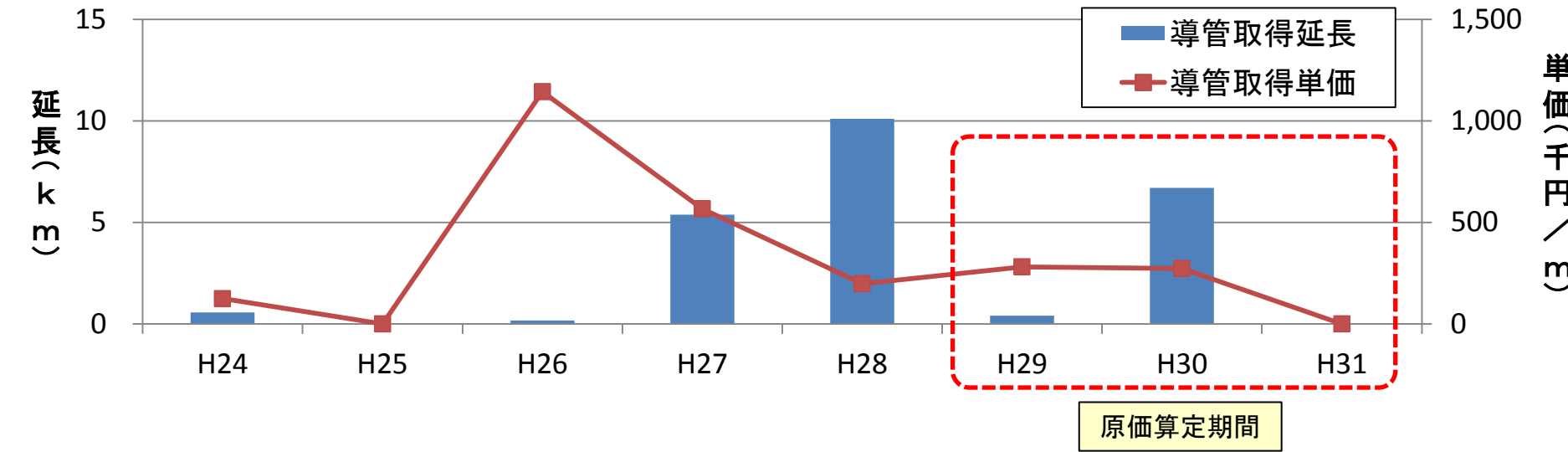


【参考】供給設備の物量と単価について(再掲)

中圧導管の導管取得延長と単価の推移



高圧導管の導管取得延長と単価の推移



2. 固定資産除却費の算定方法(1)内訳

- 固定資産除却費は、本支管関連の除却費の減により、現行原価と比較して減少しております。

◆固定資産除却費の内訳

(億円)

		申請原価 (A) H29～31平均	現行原価 (B) H27～29平均	差引 (A-B)	備 考
本支管	除却費用	21	30	▲9	保安対策(低圧)の減少等
	除却損	0.3	0.3	▲0	
		21	30	▲9	
本支管以外	除却費用	6	7	▲0	
	除却損	1	1	+0	
		8	8	▲0	
合 計	除却費用	27	37	▲9	
	除却損	2	1	+0	
		29	39	▲9	

(注)各項目の数値は切り捨てのため、合計が合わない場合がある。

2. 固定資産除却費の算定方法(2)除却費用

- 固定資産除却費のうち、除却費用は、本支管と本支管以外に区分し、以下のとおり算定しています。

◆ 除却費用の算定方法

【本支管】

- ・ 除却延長に実績単価を乗じて算定しています。(一部の工事は個別積上で算定)
- ・ 除却延長は、原価算定期間の想定延長に基づき算定しています。

< 除却延長 >

(千m)

	H29年度	H30年度	H31年度	H29～31平均
中 圧	15	19	20	18
低 圧	26	26	26	26
合 計	41	45	46	44

- ・ 単価は、H25年度からH27年度の工事区分毎の実績平均単価に、今後の効率化努力(▲2.4%)を織込んで算定しています(中圧:67千円/m、低圧:29千円/m)。

【本支管以外】

- ・ H25年度からH27年度の実績平均値に、今後の効率化努力(▲2.4%)を織込んで算定しています。

2. 固定資産除却費の算定方法(3)除却損

- 除却損は、原価算定期間における期首帳簿価額に、過去実績に基づく除却損率を乗じて算定しています。
- 除却損には、除去資産(鉄屑等)の売却による圧縮を反映しています。

◆ 除却損の算定方法

$$\text{除却損} = \text{原価算定期間における期首帳簿価額} \times \text{除却損率(※1)} - \text{除去資産売却額(※2)}$$

(※1) 除却損率は「H25年度からH27年度の除却損実績÷H25年度からH27年度の期首帳簿価額」(0.134%/年)。

(※2) 除去資産売却額は、H25年度からH27年度の除却資産(鉄屑等)売却額の平均値(1百万円/年)。

【参考】除却工事の概要

- 固定資産除却費は、主に、導管の工事（保安対策等、古い導管を撤去し、新たな導管を敷設する工事）の撤去費として発生しています。

◆入替工事



入替工事現場風景



DG管



ねじ接合管(白ガス管)



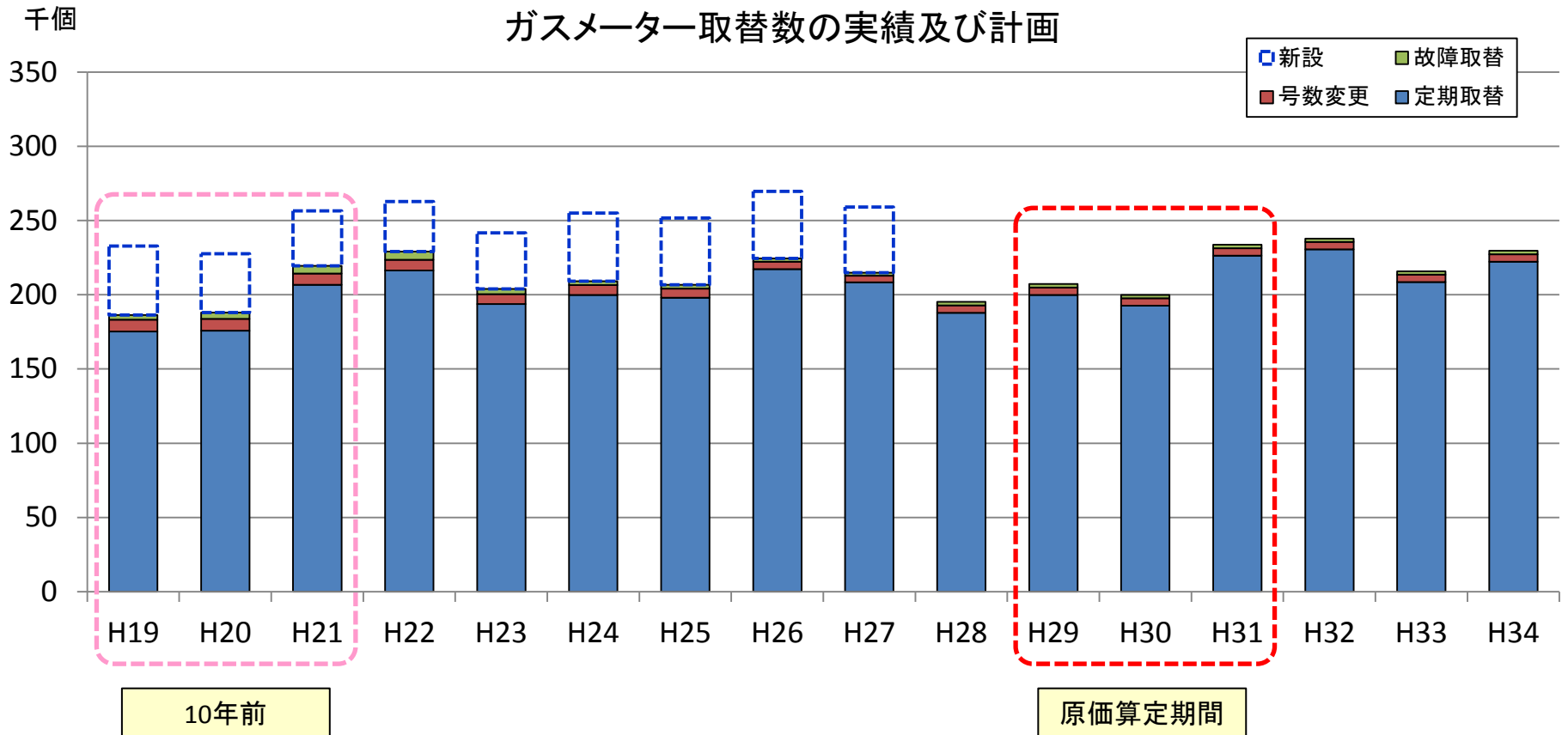
導管を撤去し、
ポリエチレン
管に入れ替え



ポリエチレン管

3. ガスメーターの取替数

- ガスメーター取替数は、定期的に発生する「定期取替」と、不定期に一定程度発生する「故障取替」「号数変更」の合計になります。
- ガスメーター取替数のほとんどを「定期取替」が占めており、検定満期(10年)に取替を実施することから、10年前の新設数と取替数の合計に対して、満期までの10年間における不定期の取替・撤去分を差し引いた数が、新たな定期取替数となります。



3. ガスメーターの取替数

■10年前のガスメーター新設数と取替数

[千個]

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
新設	46	39	37	33	37	45	44	45	44	-
故障取替	3	4	5	5	3	2	2	2	2	2
号数変更	7	7	7	7	6	6	6	4	4	5
定期取替	175	175	206	216	193	199	197	217	208	187
合計	232	227	256	262	241	254	251	269	259	-

10年前

■今後のガスメーター取替計画数

[千個]

	H29	H30	H31	H32	H33	H34
故障取替	2	2	2	2	2	2
号数変更	5	5	5	5	5	5
定期取替	199	192	226	230	207	219
合計	207	199	233	237	214	226

原価算定期間

一部のメーターが10年間に撤去や故障取替等されることにより、10年後の定期取替対象から外れます。

【注】

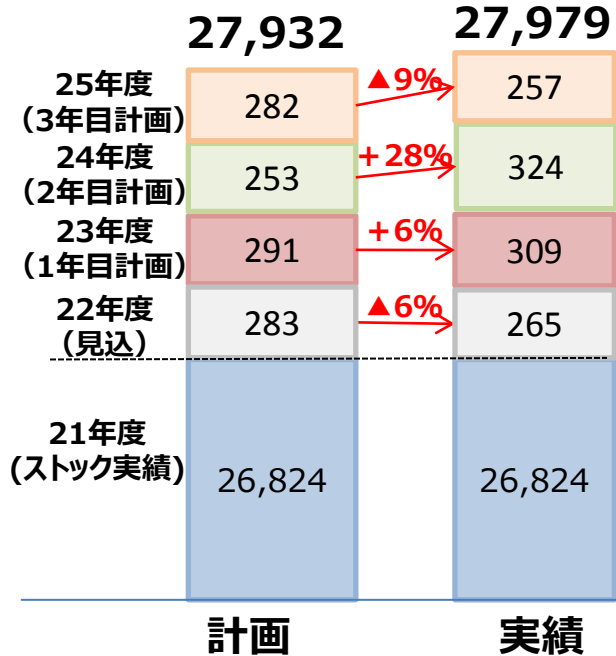
表中の数値は端数を切り捨て表示しており、合算が合わないことがあります。

4. 過去5年間の導管総延長の計画値と実績値

● 過去5年間(平成23年度～平成27年度)における導管総延長の計画値と実績値の乖離は、以下のとおりです。

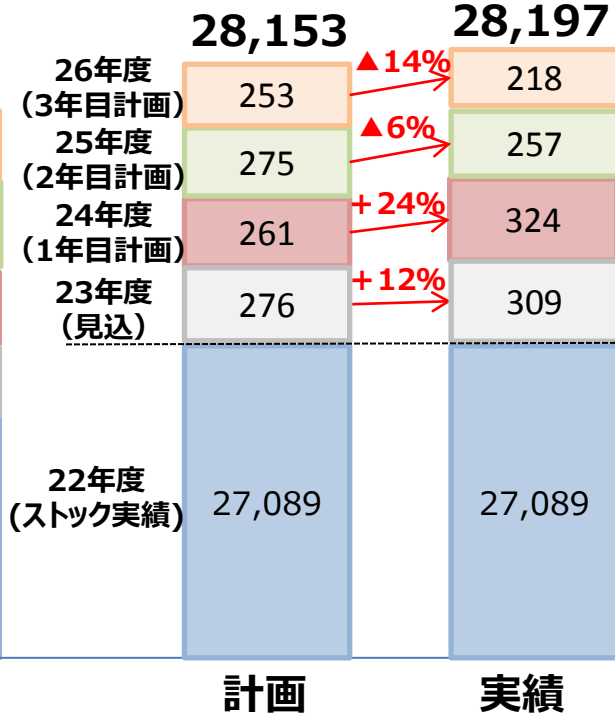
平成23年度供給計画

(単位 : km)



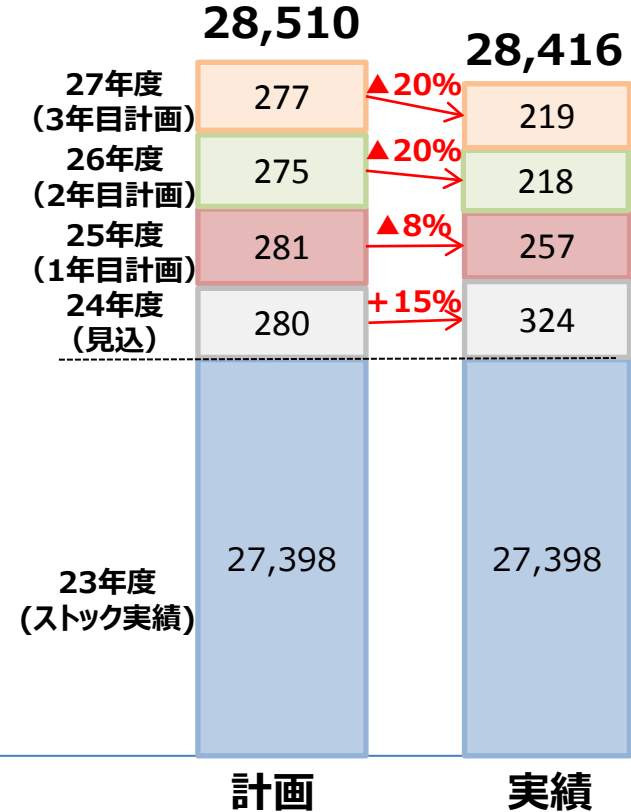
平成24年度供給計画

(単位 : km)



平成25年度供給計画

(単位 : km)

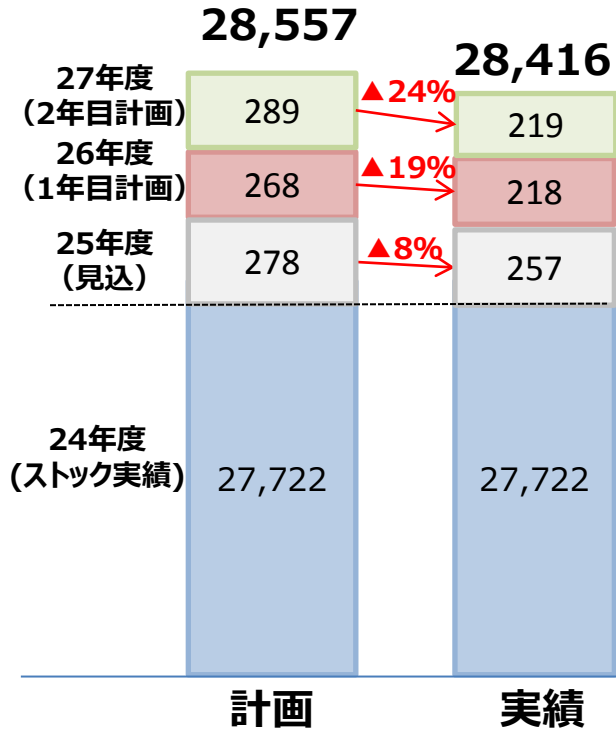


4. 過去5年間の導管総延長の計画値と実績値

● 過去5年間(平成23年度～平成27年度)における導管総延長の計画値と実績値の乖離は、以下のとおりです。

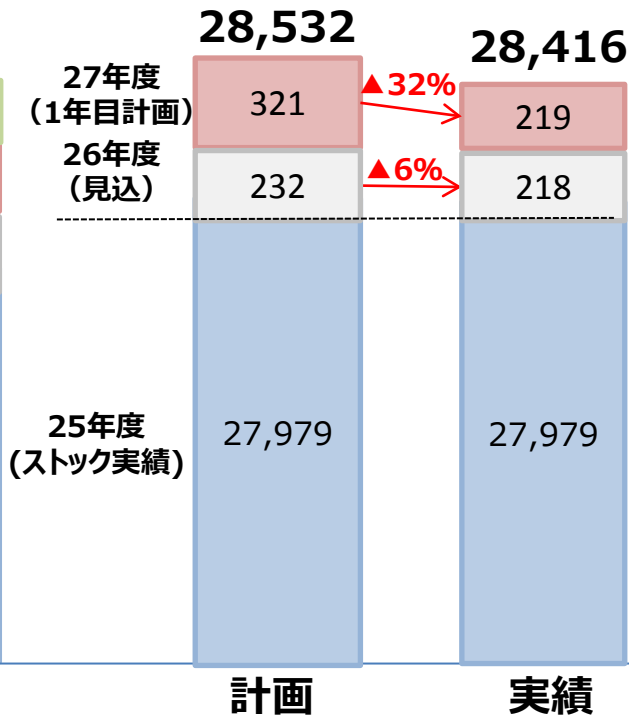
平成26年度供給計画

(単位: km)



平成27年度供給計画

(単位: km)



平成28年度供給計画

(単位: km)

